

第293号（2024年12月号） / 2024年12月1日発行

狛江市議会 2024年第3回定例会報告

8月28日から10月3日まで狛江市議会第3回定例会が行われました。日本共産党狛江市議団は、初日に予算の組み換え提案を行いました。反対多数で否決されました。（前号にて詳報）

9月5日には、4名全員が一般質問を行いました。岡村議員は「(仮称) こども条例について」「外国の学校へ通う子の受け入れについて」「公共交通について」の3問、宮坂良子議員は、「狛江団地の建て替え問題について」「会計年度任用職員の処遇改善とジェンダー平等へ」の2問、西村あつ子議員は「寄せられた市民要望について」「市民生活支援について」の2問、荒木てつ議員は「防災対策について」「教育環境の充実について」に2問を質問しました

昨年度決算は、実質収支比率で約18億円の黒字となりました。昨年度は、物価高騰や実質賃金の低下など、厳しさが増す中で市民生活支援の充実が求められる年でした。

実質公債費比率(市町村の借金返済額の収入に対する割合)は26市中11位となっており、狛江市の財政には十分余裕があります。

昨年度実施された各種の物価対策の取組みは、大学生等への給付金、住民税非課税世帯への給付金で均等割のみ課税世帯へも拡大したこと、電気料高騰対策支援金、3学期以降からの学校給食費の無償化などは、日本共産党市議団が要望していたもので評価できるものですが、物価上昇対策事業費総額15億2000万円のうち、狛江市の一般財源は約3900万円です。市民生活が厳しい中で約18億の黒字を市民生活支援に使うべきでした。

また、中央図書館の分割・移転問題は、昨年度に住民投票条例制定を求める署名が4,000筆以上寄せられました。こうした活動の背景には、中央図書

館の分割・移転の決定方針が市民参加の手続きがとられずに出されたため「狛江市の市民参加と市民協働推進に関する基本条例」に違反の疑いを持つ市民の方々がいたからです。私たちは当初から「市民センター改修等基本方針」を案として提案し、市民の意見を聴くべきと考えていました。

昨年度決算は、日本共産党狛江市議団などは不認定としましたが、賛成多数で認定されました。

市民の皆さんからの陳情は4本ありました。『全国でも珍しい「駅前に自然が残された自治体」として市民の誇りと努力を台無しにすることなく、これまでの使われ方を尊重した自然豊かな駅前保全と両立するほこ道整備を求める陳情』は、自民党・明政クラブ、狛江市議会公明党、わかりやすい政治を伝える・維新の会、小木哲朗(生ネ)、吉野芳子議員の反対で、否決されました。

『京王バスの「狛江ハイタウン折返場～つつじヶ丘駅」の路線の実質廃止によって、買い物や通院が困難になっている交通弱者への対応策の検討を求める陳情』は、全会一致で採択されました。

『国に対し、当面の間現行の健康保険証とマイナ保険証の両立を求める意見書の提出を求める陳情』は、自民党・明政クラブ、狛江市議会公明党、わかりやすい政治を伝える・維新の会の反対で否決されました。

『障がい者の外出等に係る交付制度の見直しに関する陳情』は継続審議となりました。

議員提出の『第7次エネルギー基本計画の策定に際し、1.5度目標の確実な実現を目指すことを求める意見書』は、自民党・明政クラブ、狛江市議会公明党、わかりやすい政治を伝える・維新の会の反対で否決されました。

<投稿：選挙結果に思う～これからの議論に向けて>

“裏金”解散・総選挙結果を読み解く

永山利和（元日本大学教授）

異例の解散・総選挙だった。解散理由は“裏金”蔓延の“お清掃”だった。自公与党は過半数割れし、一党支配は再度終わった。ただ自公から反自公への政権転換はなく、親自公野党と組む仮装自公政権に転じた。自公も“共闘”路線となる。“共闘”は主張が違う諸党派が組み、主敵を倒す戦略。「合従」、違いを踏まえた大同小異、大同団結で主敵に打撃を与える戦略だ。問題は立党原則に拘わりつつ、多様、柔軟な妥協が肝どころだ。今回は立憲野党の合従は縮減した。

積み上った“裏金”体制の不法・違法を問い、廃止すること（政治資金規正法改正等）は当然だった。が、真の争点は自民党派閥・議員群が巨額“裏金”で推進する改憲・参戦機構づくりの是非だ。

自公政権には“裏金”が欠かせない。“政治の自由”の陰に潜む“闇政治”、すなわち一党支配下でも野党工作等の国会対策費（懐柔・口止め等の画策）、司法・検察・公安との裏取引に要する官房機密費、政策活動費、調査研究広報滞在費等、領収書不要の“公式機密費”のほか、“自由な政治活動費”である改憲推進や改憲前に集団的自衛権行使法規の制定、防衛力強化費捻出手段となる巨額の補正予算・予備費と執行残予算の「基金」。要するに国家の“裏予算”と“闇政治”である。

自公政権は“皮一枚”、“裏金”・“裏予算”・“闇政治”体制を引き延ばし、企業関連労組代表議員・政党との“コーポラティズム”か“多元主義”的連携（103万円の壁への譲歩）を図る。

この政治、行政、司法に跨る改憲狙いの“裏政治”は、安保条約、地位協定と日米合同委員会体制を支える経済団体や集票機構維持に、“東京育ちの”地方（出身）議員”、2・3世議員を擁し、彼らを支える地方議員や支部組織に流す資金（広島選挙区の河井夫妻の金権選挙）、とくに領収書不要の資金が欠かせない。自民党の“裏政治”と“裏金”による世論の“裏工作”に抗した改憲阻止、安保関連法規の扱いが真の争点であった。

選挙前後に“裏金”議員の選挙活動にも“裏資金”を流し、非公認候補も復党した。議員減少党は自・公・維・共、増加党は立憲・国民・れいわ・参政・保守だった。立は50増、共・れが入替った。国の21増は自民を補強し、維の6減と参・保の小計6議席は下層（若者）社会発の世界史逆流に繋がる危険性を孕む。

結果は相討ちだった。ただ、「規定は否定である」から、多様性、共闘路線は正義の主張だけでは前進しない。何を我慢するかを論議する舞台づくりが欠かせない。

有権者はこれで良いのか・・・衆議院選挙の感想

中和泉 石川 巖

表題は選挙後私が一番強く感じていることで、言いたいことでもあります。

選挙結果で何より注目したのは、自公が過半数割れしたことではなく、過半数割れに追い込む原動力・最大の功労者と言っていい日本共産党が、こともあろうに得票・議席共に後退したことでした。

人を人と思っていないかのような様々な所業・政治を重ねて私たち有権者を苦しめている彼ら自民党が、組織的にキタナイ手口で裏金を懐にして潤っている。この「一大政治犯罪」「戦後政治の中で最悪の不祥事」を共産党は地道な調査で暴き、国会その他で追及しました。その結果、金

権腐敗政治への国民の批判が強まり、岸田首相は辞任に追い込まれ、裏金政治問題は選挙の最大の争点になりました。さらにその選挙の最中に、裏金非公認議員へ政党助成金から2000万円が支給されていたことをスクープしました。犯罪者に国民の税金がプレゼントされていたのです。ここまでの流れは誰も否定できない事実ではないでしょうか。

私たち有権者の目の前にはこのような政治状況が提示され、審判が委ねられました。私は共産党が緻密な調査を粘り強くつづけ、金まみれ・腐敗の構造を白日の下に明かしてくれたことに、率直に、“凄い良くやった”“感謝！”と思いました。

そういう活動・実績こそ、世の中で当然広く評価・共感され、存在感を強められなければならない、もっと言えば、正義と熱意と科学の目で切り開く運動は、もちろん共産党以外、また政治以外のあらゆる分野に対してもそうでなければならぬはずです。日本被団協のノーベル平和賞授賞にはそう言う意味からも喝采し、感激しています。

ですから、選挙にもそれが反映されるものと見守っていました。しかし結果は理解しがたいものでした。共産党は前回より 80 万票減らしました（奪われました）。

この事実は、裏金政治を追及しなくてもいいという有権者がふえたことを意味します。

いったいどこを見て何を望んでいるのでしょうか。

政治の劣化が言われて久しいです。それは「政治家の劣化」だけではなく、その支えになっている「有権者の劣化」でもあることが今回痛いほど理解できました。有権者はそもそも主権者です。主権者は主権者らしい自覚を持ち、それなりの見識と物事を見通す素養を備えた責任ある存在であるべきではないのか。これはそのまま自分自身への戒めであることは言うまでもありません。

同じような議論をどこかで 30 年前にやったことを思い出しています。

衆議院選挙結果について

和泉本町 西尾真人

議席数で見ると与党が大きく過半数割れとなったこと、憲法改定発議に必要な 2/3 を補完政党を含めても確保できず、与党側の大敗となったことはご存じの通りです。

また、立憲と共産が競合した小選挙区では票を合わせると自民票を上回る選挙区は 22 あり、立憲が第 1 党になり、政権交代できる可能性を取り逃がしているともいえます。

右に比例区の党派別得票数・得票率を前回選挙と併せて掲載しました。数値は総務省のデータを使い、市民運動の視点から与党、立憲野党、憲法改定推進の補完政党に区分しています。

目立つのは議席と同様に与党の激減、特に自民党が顕著で 530 万票減（27%減）で、さらに維新が約 300 万票減（37%減）。それに対して立憲はほぼ横ばいです。自民党を過半数割れに追い込んだ共産党が 80 万票（19%減）減らしています。増やした政党は国民で 350 万票増（38%増）、参政党・保守党の右寄り政党は合わせると 300 万票を得ています。れいわが 160 万票増（72%増）です。

これをどう見るかです。繊細な票の移動はあるかと思いますが、ざっくりとえば与党（維新も与党を助けているとみなして含めると）に対する失望と批判が 290 万票の棄権、600 万票が右翼的な政党、国民などの補完政党に、ごく一部が立憲野党に流れた票の出方です。共産党の票はれいわ・立憲などに流れた可能性を否定できないよう

2024.10衆議院選挙 比例区党派別得票数・得票率

政党	投票数			得票率			
	2024	2021	差	2024	2021	差	
与党	自民党	14,582,690	19,914,883	-5,332,193	26.7	34.7	-7.9
	公明党	5,964,415	7,114,282	-1,149,867	10.9	12.4	-1.5
	小計	20,547,105	27,029,165	-6,482,060	37.7	47.0	-9.4
補完政党	維新	5,105,127	8,050,830	-2,945,703	9.4	14.0	-4.7
	国民	6,171,533	2,593,396	3,578,137	11.3	4.5	6.8
	参政党	1,870,347			3.4		
	保守	1,145,622			2.1		
	みんな(NHK党)	23,784	796,788		0.0	1.4	
小計	14,316,413	11,441,014	2,875,399	26.2	18.5	7.7	
立憲野党	立憲	11,565,123	11,492,095	73,028	21.2	20.0	1.2
	共産	3,362,966	4,166,076	-803,110	6.2	7.3	-1.1
	社民	934,598	1,018,588	-83,990	1.7	1.8	-0.1
	れいわ	3,805,060	2,215,648	1,589,412	7.0	3.9	3.1
小計	19,667,747	18,892,407	775,340	36.1	32.9	3.2	
諸派	18,455	103,393	-84,938	0.0	0.2	-0.2	
総計	54,549,720	57,465,979	-2,916,259				
総投票数	55,930,899	58,893,807	-2,962,908	53.84	55.92	-2.1	

総務省資料より整理

に思われます。立憲の議席増は自民の惨敗（小選挙区でも同様）のお陰と言っても良いかと思えます。

結局、自民党政治は嫌だが、さりとて立憲野党の支持に流れたわけではありません。よく言われているように若い人向け（50歳以下）にSNSなどで宣伝、短いフレーズで訴えるなど戦術に長けたと言われる国民やれいわが伸ばしています。SNSなどの利用などの影響があったことは、兵庫県知事選で斎藤候補が再選したことで確かです。SNSを駆使した宣伝で、政策以前の「パワハラ」「おねだり」体質の事実はどうやむやにされ、

フェイクも含めて「かわいそうな斉藤さん」となりました。自分で事実確認と是非の判断を放棄したかのような短絡的な(と私には見える)思考は、そうなる社会的背景があるはずで

す。私は今世紀に入り多くの国民が新自由主義による労働破壊で不安定な雇用と生活を強いられる中で、デジタル社会・スマホ社会が落ち着いて考える機会を奪っているように感じます。また、安保法制(集団的自衛権行使)・軍拡が立憲野党を含めて総じてあいまいにされ、外交による緊張緩和がおろそかにされ、国民の中に不安を与えていることも一因ではないかと思われ

< 投稿：選挙結果に思う～11月号への追記 >

和泉本町3 須貝光典

11月号では裏金問題追及で一番活躍した日本共産党が得票数および議席を減らした原因の一つについて、「(日本共産党の後退の原因は)アジアの安全保障環境の変化を反映した今の国際情勢にあるような気がします。有権者は、中国、ロシア、北朝鮮=社会主義ととらえます。今回の選挙で、日本共産党は社会主義の優位性を選挙で訴えましたが、有権者には、「社会主義を目指す政党」というくくりで考えられてしまうため、訴えの内容が固い支持者以外には届かなかったのだと私は考えます。」と書きました。このような情勢の中で、共産党が「社会主義と自由」を前面に出して訴えても、有権者にはピンとこなかったのだろうと思ったからです。

実際、政見放送では各政党の網羅的な政策が述べられますが、多くの有権者は政見放送まで観ないでしょう。そして夜のテレビなどで紹介される日本共産党の政策は「裏金問題」と「社会主義と自由」の二つに集約されてしまう結果となってしまったと思います。

有権者は国民民主党の「手取りを増やす(「103万円の壁を引き上げる」)や「消費税や所得税の減税」、新選組の「消費税廃止」を前面に出した政策に魅力を感じたため、得票数・議席の大幅増加につながったのだと思います。

今回はこれにひとつ追加したいと思います。今回の総選挙と兵庫県知事選挙の結果から言える事は、『どのように正しい政策を言っても、ただファクトを提示するだけではダメで、有権者の「共感」を呼び覚まさないダメだ』ということ

こうした社会的雰囲気を変えていく事業と一緒に暮らしと平和の追求はかなり地道な努力と大きなパワーが必要とされるように思います。せっかく少数与党に追い込んだのですから、来年の参議院選挙に向けて、立憲野党が一致している企業・団体献金の禁止、最賃の引上げ、学費の減額、健康保険証の継続、選択的夫婦別姓の実現、原発の停止、核禁条約への参加等の実現から始め、経済問題、人権問題、平和問題など議論を喚起していければ、と思います。最後は一般的な言い方になってしまいました。

です。昨今の選挙戦ではSNSを大々的に使ったの宣伝力が鍵になってきたようです。国民民主党やれいわ新選組には、その政策の中身の是非(財政的裏づけ)は別としても、SNSを駆使した、有権者の「共感を導き出す政策の提示の仕方」がうまくいったと言わざるを得ません。政治は「結果」ですから、いくら良い政策を訴えても、有権者の共感(票)をもらえなければ政治的には敗北だと思

います。さて来年7月には参議院議員選挙と東京都議会議員選挙があります。一有権者として、今から来年の選挙までにやるべきことは何なのか、正直まだわかりません。

SNSに踊らされず、やはり人と人との繋がりを大切に

近頃の選挙を見ていると、何が正しい情報か、フェイクニュースなのか見極められないと、偽情報に踊らされ、判断を間違えることになってきます。多くの人に情報を伝える手段としてSNSを上手に使えるようになる必要はあると思いますが、実績や政策を理解し信頼してもらうためには、やはり人と人との関係が大事だと思うのです。

見回すと高齢化や体の不調でこれまでのように動けない方々が増えてい

ます。ましてSNSを駆使してなどはとてもおぼつきません。技術を持った人の力を借りて効率化を図るとともに、長年の経験や付き合いを活かした活動を地道にやっていくしかないだろうと思

総選挙結果を受け、東京 22 区市民連合「ちょこみた」は下記の声明を出しました。

第 50 回衆議院選挙の結果を踏まえて新たな運動へ

2024 年 11 月 4 日「ちょこみた@東京 22 区」

第 50 回衆議院選挙は、自民・公明与党の過半数割れ、翼賛政党では維新の激減と国民民主の激増、これに対する立憲野党では立憲・れいわの激増と共産の減、社民の現状維持という結果となった。9 条改憲に反対する立憲・れいわ・共産・社民が議席の 3 分の 1 超を確保し、これらが「動揺」しない限り、改憲勢力が改憲発議をすることはできない国会がつくられたことになる。

岸田前首相の 9 条改憲と財界奉仕の大軍拡・増税、これと表裏一体の裏金・脱税の擁護などの政治を引き継いだ石破新首相が、国民の怒りと批判が「市民と野党の共闘」に発展する前に決着しようと就任 8 日後に仕掛けた「電撃解散・総選挙」は、失敗したと言える。

今回東京 22 区では、市民連合「ちょこみた」として立憲・共産の両党に候補者を統一するよう要望したが、東京都レベルでの協議の条件が整わないまま選挙戦に突入し、並立する山花・平野両候補と「ちょこみた」が自民に挑戦する構図となった。これによって自民を追いつめ、山花候補が小選挙区で議席を奪還することができたが、自民の伊藤候補にも比例復活を許してしまった。

「市民と野党の共闘」への妨害は、数年前から「連合」主導で「立憲共産党」などの嫌がらせによる共産排除、政府の当初予算案に賛成した国民民主の共闘離脱、都知事選での石丸ブームなどでの立憲への分断攻撃などが執拗に重ねられてきた。それらは立憲代表選では各候補が安保法制・立憲主義・暮らしと人権をめぐる「共闘の共通政策」を否定する発言（「日米同盟を基軸に」を強調する文言も）を行ない、れいわが「オール沖縄」を否定する行動を行なうなど、共闘内にも足並みの乱れを生じさせた。立憲野党は総選挙に向けて、これらの問題について十分な意見交換と合意形成を行なう必要に迫られていたが、それをなしえないまま「超短期決戦」に突入せざるを得なかった。

しかし市民と野党は、これまでの運動の蓄積を踏まえて、共闘の不全を補うために、以下のような新しいかたちの「直接・間接の共闘」をくり広げた。

① 物価・災害には無策なのに裏金・脱税にはしがみついた自民・公明への国民の怒りと批判が広がる中で、裏金政治や裏公認についてスクープし批判する「しんぶん赤旗」と共産党が積極的な役割(野

党共闘、統一戦線を綱領に掲げ、9 条改憲に反対し、企業献金・政党助成金を受け取らない共産党の役割が社会的に注目を集め、妨害勢力の共産党嫌悪をも掻き立てている)を果たし、自民党を迫及する市民と野党のたたかいは大きく前進した。

② 市民は市民で、野党共闘は不全でも「裏金・脱税自民党の議席を減らそう」「選挙に行って政治を変えよう」などの「ひとり街宣」運動、個々の立憲野党へのサポート活動などをくり広げた。

③ こうして総選挙は、長年にわたって岸田政権を追いつめてきた「内閣支持率」の凋落という世論の流れを継承して、「与党議席の過半数割れ、改憲勢力議席の 3 分の 2 割れ」という画期的な国会を作り出すにいたった。国民民主も維新も安易に「自民補完」を言えない状況もうまれ、憲法 9 条を生かして大軍拡・増税を STOP するチャンスが到来している。

いま、マイナ保険証、43 兆円軍拡の財源調達、高齢者医療 3 割負担など、直面する課題が山積し、平和と国民の暮らしは重大な困難に直面している。与野党が伯仲・分散しているもとの国会運営の行方も問われている。来年は参議院選、都議選がある。

「ちょこみた」はこれらの情勢と総選挙の結果を踏まえ、「ちょこみた」とその構成 3 市団体が各立憲野党との日常的な懇談・協力・共同をつくることが重要と痛感している。同時に「ちょこみた」は、総選挙に間に合わなかった「市民と野党の共闘」を新たに発展させるには、「ちょこみた」内だけでなく東京・全国レベルで、共闘に関わる市民と各立憲野党が、「立憲主義の回復・安保法制の廃止・個人の尊厳擁護」という共闘の原点に立ち返り、①それぞれの立場と力量を尊重しながら話し合いをくり返し、②市民と野党が一致して責任をもって取り組むことのできる「共通課題」を練り上げ、③その課題を実現するために誠意をもって力を合わせることを展望して模索を重ねたい。以上



12月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、280部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(火) 15時~16時	狛江駅前	Silent Standing	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
7日(土) 14時00分~	東京土建狛江支部会館	こまえ社保協第12回総会	
9日(月) 15時~16時	狛江駅前	9の日行動 = 駅前署名・宣伝行動	戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会
11日(水) 14時~15時	狛江駅前	「福島原発事故を忘れない」 駅前宣伝	原発と気候危機を考える会
13日(金) 10時30分~	みんなの広場	「豊かな狛江」1月号 編集会議	
14日(土) 10時~16時	練馬文化センター	東京母親大会	特別講演：永田浩三さん
19日(木) 16時~ 17時30分	西河原公民館 学習室2	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
20日(金) 14時~16時	東京土建狛江支部会館	こまえ社保協事務局・役員会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
23日(月) 14時~16時	みんなの広場	豊かな会拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
24日(火) 9時30分~	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』 1月号の製本・仕分け作業	折り込みのある団体はご参加ください。
18日(水) 17時30分 ~18時30分	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》 の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支部などが中心。第4水曜日。

<狛江市議会2024年度第4回定例会>

11月25日(月) 本会議(初日)

12月4日(水) 5日(木) 6日(金) 9日(月) 一般質問

12月11日(水) 総務文教常任委員会

12月12日(木) 社会常任委員会

12月13日(金) 建設環境常任委員会

12月25日(水) 本会議(最終日)

ハイタウン経由京王バス路線が完全廃止に！？

日本共産党 狛江市環境まちづくり推進室長 重国たけし

狛江市の日本共産党は、住民の暮らしの足の確保、移動の権利の保障へ、従来から地域公共交通の問題を重視し、その拡充に取り組んできています。最近の運転手不足による減便について、バス会社への要請なども行ってきました。

私は、とりわけ東野川地域で相次ぐ、バス路線の廃止・減便の問題について取り組み、昨年の京王バス（ハイタウンーつつじヶ丘駅便）の大幅減便（実質的路線廃止）問題や、小田急バス（ハイタウンー喜多見駅）便の空白時間帯問題等（昨年6月にお昼前後の3時間の空白時間が一時解消されたが、今年3月にふたたび4時間の空白に。終バスの19時への2時間繰り上げ）について、調査・申し入れ等を行ってきました。共産党市議団も議会で取り上げ、要望を行ってきました。

■地域公共交通会議に市民公募委員で参加

また、私は今年7月から狛江市地域公共交通会議（狛江市関連部、バス・タクシー事業者、有識者、公募市民で構成し地域交通問題について議論）にも市民公募委員として参加し、改善を求めてきました。

こうした中、10月31日の地域公共交通会議では、改善とは逆に、より住民にとって厳しい方向が示されました。ハイタウン折返し場を経由する京王バス「つつじヶ丘駅ー調布駅」便を12月16日で廃止するとのことでした。この路線は昨年2月に「つつじヶ丘駅ーハイタウン」便が実質廃止され、わずかに一日2便で運行されていたものでした。廃止の理由は、バス運転手不足が引き続き解消されないこと、乗車数が少ない赤字路線であることですが、「つつじヶ丘駅ーハイタウン」便の実質廃止で不便を感じていた住民のなかには、「つつじヶ丘駅ー調布駅」便の増便への期待もあったなかでの完全廃止です。

9月の市議会には、減便が続くこの地域のバス事情の改善を求める陳情（世田谷区民による「京王バスの『狛江ハイタウン折返場〜つつじヶ丘駅』の路線の実質廃止によって、買い物や通院が困難になっている交通弱者への対応策の検討を求める陳情」が、全会一致で採択されたばかりでした。

■都や国に対策を求めることを含めた対応を

運転手不足が背景にあり、簡単に解決できないことは住民も知っています。それでも繰り返す、「困っている」との声が上がっているのです。市場競争原理任せにするのではなく、暮らしの足を確保することは人権保障との立場に立ち、都や国に対策を求めることをふくめた対応の模索が求められています。

日本共産党は、先の総選挙政策でも、「事業者任せでは限界があり、地域公共交通を活性化し再生する展望は開けません。EU諸国のように、事業運営の財源を確保し、公共団体が主体的に関与する事業制度を検討すべきです」として、バス運転手の処遇改善等を含め、公的支援を強化することを提案しています。

■こまバスがルート変更するとシルバーパスが使えなくなる？

住民要望の一つに、交通不便地域を解消のために、こまバスに新ルートを設けたり、柔軟にルート変更をしてほしいという要望があります。このことについても、市議会で岡村議員が取り上げるとともに、私も地域公共交通会議や共産党都議団による都交渉の場などで要請してきました。

現在、市は、「都条例に基づくコミュニティバスは路線変更するとシルバーパスが適用できなくなる」との解釈をしていますが、先日の都交渉の場では「地元自治体とバス協会が合意していれば都が認めないということではない」といった回答もありました。地域公共交通会議では、都の条例がネックであれば、都条例改定を市として求めるなどしてほしいと要望しました。この点は、さらに確認をし、必要な改善を求めていきたいと考えています。

引き続き、地域の足を守るバス路線の問題については、住民のみなさんとともに取り組みます。

また、地域公共交通会議では、自動運転バスの実証実験（和泉多摩川駅ー多摩川住宅）が狛江で行われ、12月20、21日には住民試乗会も行われることなどが報告されました。自動運転は、運転手不足問題解消への期待もありますが、安全が確認され実際に多くの路線で運行されるのがいつになるのかは、まだ見通しがある段階にはありません。

11・3国会前で「憲法守れ」

憲法が公布されて78周年を迎えた11月3日(日)、「憲法変えさせない!戦争反対!今こそ平和と人権 国会大行動」が国会正門前で開催され、2,300人が参加しました。



総選挙で自民・公明を過半数割れし、改憲勢力が三分の二を下回った新たな情勢の

もとでも、石破茂首相は「自民党の党是である憲法改正を前に進めていく」と強弁しています。

主催者を代表して染裕之さん(総がかり実行委共同代表)が「市民が改憲に反対する野党を

支えよう」と呼びかけ、政党からは社民党・福島瑞穂党首、日本共産党・小池晃書記局長、市民と野党の共闘で当選したばかりの立憲民主党・有田芳生衆議院議員が挨拶し、小池さんが紹介した作家で参議院議員だった山本有三さんが「日本国憲法は戦争放棄というかつてないものを決めた。これは国際的にも文化的にも大きな意義がある。だから文化の日と名付けた」が記憶に残りました。(前土肥 保)

こまえ社会保障推進協議会 第12回総会

日時:12月7日(土)14時~16時

会場:東京土建狛江支部2階会議室

記念講演 田村彰宏さん(東京土建本部常任執行委員)

『マイナ保険証についての情勢(仮題)』

狛江の自然



たくましい草たち

建物の脇に溜まったわずかな土に、びっくりするほど様々な草たちが根を張り葉を伸ばしていました。うまく冬が越せるでしょうか。

(中和泉 周東三和子)